



# こそだて通信

かしのき保育園 2011年度 No.3

## ==「できたよ！」==

まだまだ残暑は厳しいですが、8月も終わり9月になると、夏気分もそろそろ終わりといったところでしょうか。

皆さんはどんな夏を過ごされましたか？

保育園では今年も、水遊びやプールで嬉しそうにはしゃぐ声が響いていました。暑い日に、水に触れることを楽しみにしていたお子さんも多かったことでしょう。プールが終わった時には大きな声で、「ちょっとだけ、かおつけられたよ！」「こわくなかった！」と声を弾ませて教えてくれるお子さんが何人もいました。実は、プールの前には私に、「ちょっとね、おかおつけるのがいやなんだよ・・・」「フープがちょっとね・・・」と、葛藤する気持ちをこっそり聞かせてくれていたお子さんたちです。

プール前の表情とは対照的な、プール後の「できたよ！」の表情に出会うと、子どもというのは【出来るようになりたい】という気持ちを強く持っているんだな、と感じます。

まだまだ発達途上の年齢。出来なかったことが出来るようになったことを知らせてくれる表情の奥からは、「がんばったボクってすごいでしょ」「こわい気持ちにまけなかったわたしってすごいでしょ」という思いが伝わってきます。

出来たという嬉しさは、つまり、出来るようになった自分自身を誇らしく思う気持ちです。自分は前の自分と違って成長したんだ、自分はそのために頑張れたんだ、という自分への肯定感、これが[自尊心]です。

そういった気持ちは、子どもが自分一人で育てていくものではなく、「見てるから、頑張ってごらん」と、そばにいる大人が見守り、「できたね、頑張ったね」「やったね！うれしいね」と出来たことを一緒に喜んでくれる人がいる事がとても大切です。

見守ってくれた大人と、目と目を合わせて笑いあった瞬間を積み重ねることが、その子が自分の存在を肯定し、その子自身が自分を好きになることにつながっていくんだろうなと感じています。

子どもの頃の毎日は、こんな瞬間の連続であるはずです。

不安や葛藤も心身の成長には欠かせません。そしてそれを乗り越えた時の喜びを子どもが感じられる毎日であるように、そばで見守れたらと思っています。

(臨床心理士 藤井あづさ)